

「言語能力をはぐくむモデル校」SE 通信

# つながり

5月号

## 「言葉の力」を育むために～教員たちも学び合い～

5月7日、本校では「言語能力をはぐくむモデル校」としての取り組みに向けた校内研修会を実施しました。

研修では、これまでの本校の研究の歩みを振り返りながら、今の子どもたちにどのような力を育むべきか、どうすれば子どもに火を灯し、主体的な学びを実装できるかについて議論しました。また、本校の研究をご支援いただく、京都女子大学の水戸部修治教授による映像資料を視聴し、より良い授業づくりへの着眼を皆で確認しました。

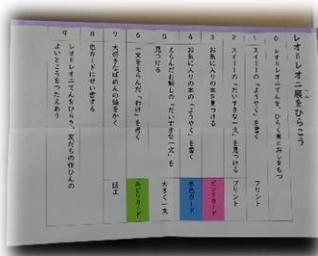
研修の後半は、4年生の国語科教材「白いぼうし」を使った模擬授業を行いました。「自分だったらこの物語のどこを不思議に思うだろう？」と、教師自身が子どもになりきって教材と向き合う時間を持つことで、子どもたちの必然性に寄り添った言語活動のあり方を模索しました。

子どもたちが言葉に注目し、言葉を使って自分の考えをいきいきと表現できる授業を目指し、私たち教職員も日々学びを深めています。

いよいよ6月4日（木）には、水戸部教授が来校され、全学年の授業を参観していただく予定です。これからも教職員が一丸となって、子どもたちの言語能力をはぐくむ研究に取り組んでまいります。



## 各学年の取り組み(2年生「スイミー」)



5月上旬、2年生は「スイミー」の学習に取り組みました。教科書で学習した後は、並行読書として、レオ＝レオニの様々な絵本を読み、自分のお気に入りの1冊を決めました。言語活動として、その絵本の題名やあらすじだけでなく、「お気に入りの一文とその理由」を自分の言葉で書きまとめました。さらに、国語科と図画工作科のカリキュラム・マネジメントを取り入れ、文章に絵を添えた素敵な作品を完成させ、最後には多目的室で「レオ＝レオニ展」を開催しました。「友だちがどんな絵本を選び、どの一文に心惹かれたのか」を、本を手に取り、叙述を指さしながら交流し合い、お互いの「大好き」を伝える素敵な時間となりました。